

ガラスビーズパウダー

絵を描くとき、質量感というものが求められます。最初はシェルサンド（貝殻の粉）を使っていたが、左官屋さんが使う骨材（壁用の混ぜ物）を使うようになり、これは軽くてかなり効果をもたらしました。私は好奇心で、色々試してみました。卵の殻で、バラを描いたときは、まさに崩落のバラという感じが出せました。また、砥石を扱っている方に破片をいただいて、砥石同士をこすって、砥粒を半乾きの画面にまいたときこの粒子はダイヤモンドについて硬く（酸化アルミナ、炭化ケイ素）、凹凸によって、光が乱反射して、キラキラ輝き、一定の効果をもたらしました。ついで、道路の舗装の仕事をしている方に、白いラインを引く材料、ガラスビーズパウダーを紹介していただき、通販で入手し、使いました。これは粒子が丸く、従って、健康被害は在りませんし、透明感があり、これからの、画材になるのではないのでしょうか。粒子の大きさはmm単位から μ 単位まであり、多様な色もあります。以前、ピカソ展に行ったとき、模写のガラス絵が展示され、その工程を写真で紹介しておりました。それは、長いガラス棒をバーナで融かしながら、作画されており、スタンドグラス風で、透明感のある美しい作品でした。絵の具の材料は一般に支販されているものは、インスタントの絵の具であって、草木の染料もあるし、岩石を砕いて作られたものもあります。例えば、レンガ色はレンガをくだいた材料でよいわけです。日本画の岩絵の具の極めつけの色は、宝石を砕いて使用されると言われており、大変高価になります。その点、ガラスビーズパウダーは優れているのではないのでしょうか。ちなみに、販売価格は白色で1500円/1kgでした。